

紅葉坂プロジェクト Vol 6 こひざらめ

ホワイエ上演イメージ



白い風船、録音された声、物や楽器から立ち上がる小さな音。観客はホワイエを歩き、距離と立つ位置を選びながら耳をすませる。舞踏家一名が音と身体を結ぶ。

対象は神奈川県立音楽堂のホワイエ。原案の終盤にあるホールでの生演奏と巨大な影は、この資料の描写対象に含めていません。AI画像の出典・ライセンスは5ページに記載。

ものが鳴る、声の位置が変わる



振動スピーカー

加振器で楽器、板、柱、銀色円筒器具、ロッカーを振動させ、その物自体から音を立ち上げる案。アンプは加振器を駆動する別の機材。

パラメトリックSP

小型・板状の指向性スピーカーを風船や面へ向け、局所的に声を知覚する構想。照射角、反射点、聞こえる範囲は実験で検証する。

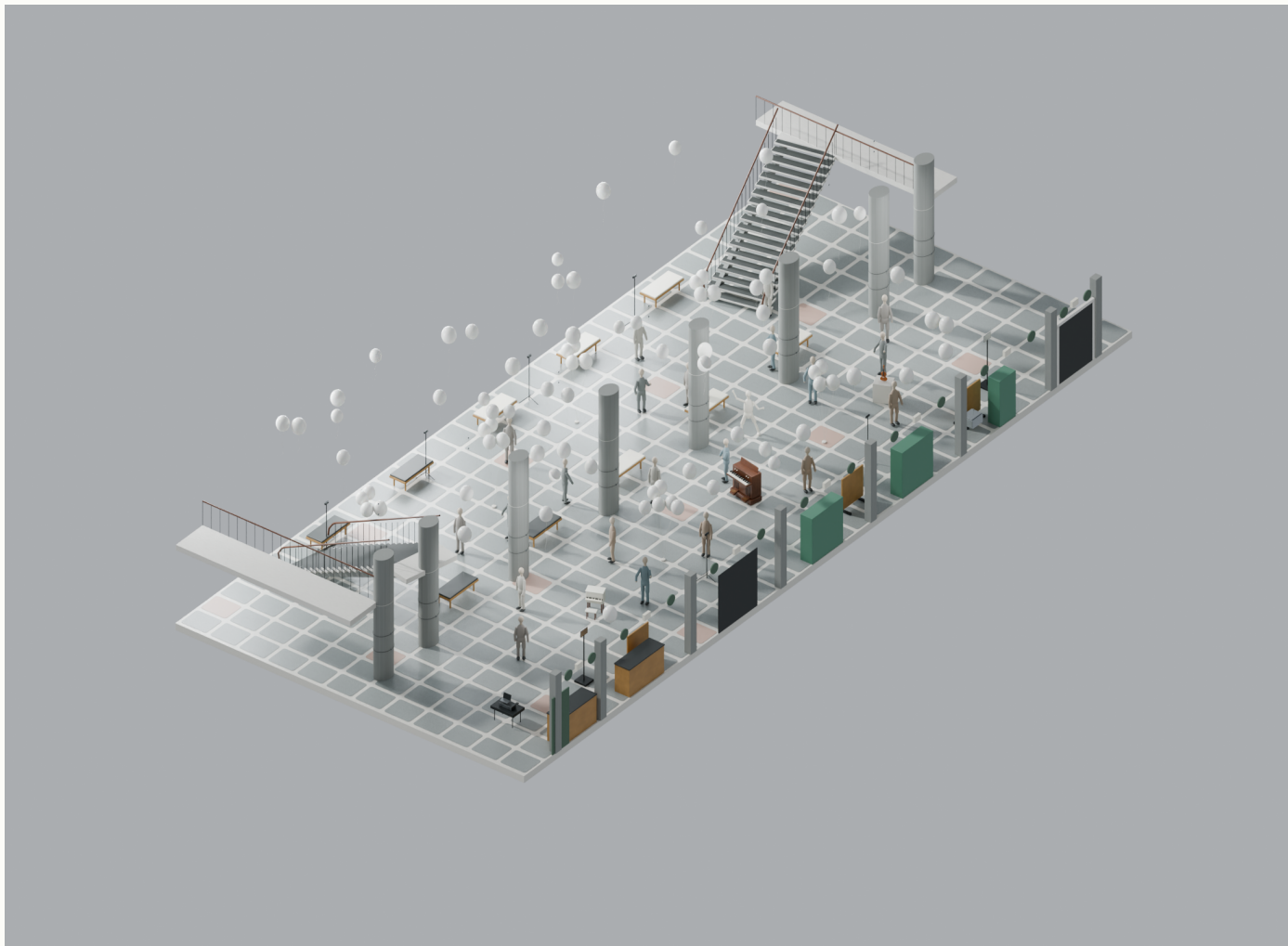
天井の風船と、建築・備品に重ねる小さな振動

既存の浮遊風船に加え、天井面へ軽く触れる風船を増やした構成。柱・銀色円筒器具・緑ロッカーの加振器は提案位置を示す。建築や既存設備への取り付け条件は未確認で、館との協議と実験を経て決める。

直接取り付けが難しい箇所では、独立支持の共鳴板を代替案として検討する。画像中の機材数・形状や風船の位置は概念表現。

AI生成による上演イメージ。写真の再現・設備配置・人数・機材形状には生成上の変形を含み、寸法や音響効果を保証するものではありません。

音を探して歩くための仮配置



3D案の仮配置数

観客	23名
舞踏家	1名
独立支持の共鳴板	3枚
加振器	65個
小型指向性SP	6台
板状指向性SP	2台
白い風船	90個
駆動アンプ	3台

加振器65個 = 板24 + 楽器3 + 柱16 + 銀色円筒16 + ロッカー6。風船90個 = 元の浮遊30 + 天井接触60。すべて検討用の仮数。

アンプはCPL4050が2台、DCP100が1台。系統割当は未設計。ホワイエの楽器は録音再生の発音体で、舞踏家以外の演奏者像は省いた。

俯瞰図は見通しのため天井と一部の壁・ガラスを非表示にしている。50個の既存ロッカーは20 + 20 + 10の3箱。実物との取り付け関係は模式的な表現。

AI画像はこの3Dを基にした写実化で、生成による形状・数・位置の変形を含む。建築寸法、動線、機材の固定方法、可聴範囲を確定する図面ではない。

風船を天井へ、振動を身近な表面へ



天井接触の風船と銀色円筒器具

白い風船が段状の天井面に接する案。梁から下がる銀色円筒器具には、各2個の加振器を仮配置した。器具は照明と推定するが、機能・型番・材質は未確定。取り付け・加振方法は協議と試験を要する。



既存の緑ロッカーを音の発生箇所に

入口側から木製カウンター、シャッター、ロッカー20・20・10個箱の順に訂正。銀色の鍵パネル、橙の鍵札、取っ手を再現した。加振器6個は設置位置の検討案で、取り付け条件は未確認。

3Dを回転・拡大して確認

momijizaka-foyer-study.pages.dev

Webビューアでは全景・ホワイエ内・天井・ロッカー・柱・銀色円筒の視点を切り替えて確認できる。

再現の根拠と、これから確かめること

建築の再現範囲

確認済み 短辺の構造芯は6.8 + 6.8 m。公式のロッカー数は50個。フロア図の571.47㎡は算定境界が不明で、モデル矩形の面積とは区別する。

暫定読取 柱の主ピッチ4.534 m、両端2.265 mを寸法線の再判読から採用し、主列8本を配置。スキャンが不鮮明なため、実測確定値として扱わない。

写真・断面からの推定 全長約30.6 m、天井高は窓側約5.7 mからホール側約3.1 m。矩形ベンチ、丸い換気口、シャッター、向きの異なる両端階段を10枚の公開写真と設計者断面で見直した。

実施前に確かめること

文化財の建築への取り付け条件は未確認。取り付け箇所、養生、振動量、転倒防止、配線、避難動線、風船の扱いを館と協議する。指向性SPの反射・定位と加振材の応答は実地で確かめる。

画像の出典とライセンス

v2のAI画像は再検証済み3Dモデルを写実化。2024年来訪写真（ツアーアウト撮影）等で材質・昼光を参照した。2017年の空間参照写真はジャコウネズミ撮影「Kanagawa Library and Music Hall 07」（CC BY-SA 4.0）。原写真は直接転載していない。モデル・AI画像の提供者が有する権利のみ、CC BY-SA 4.0で提供する。

参照写真 [Wikimedia Commons](#)

2024年の材質・昼光参照 [ツアーアウト](#)

[Creative Commons BY-SA 4.0](#)

候補機材とモデル上の扱い

Dayton Audio DAEX25FHE-4を加振器の外形参考とした（本体φ50.5 × 厚20.5 mm）。楽器上は簡略形状を使用。CLASSIC PRO DCP100とCPL4050は駆動用アンプ。最終機種と系統は未確定。

小型指向性SPはAudfly FS-Mini-B（170 × 70 × 45 mm）を参照。板状SPは型番未定の汎用アレイを仮置きした。図中の機材は外形を簡略化したモデルであり、メーカーCADではない。

主要参照リンク

01 [音楽堂公式 フロア図](#)

02 [神奈川県 音楽堂平面図](#)

03 [設計者講演記録 断面図はPDF7ページ](#)

04 [音楽堂公式 館内サービスとロッカー](#)

05 [Dayton Audio DAEX25FHE-4](#)

06 [Audfly Model Mini](#)

07 [CLASSIC PRO DCP100](#)

08 [CLASSIC PRO CPL4050](#)

建築監査の9出典と推定の詳細は同梱の参照メモに記載。2019・2024・2026年の写真と製品写真は形状確認に使用し、原写真を直接転載していない。実測BIM・施工図・音響シミュレーションではない。